

令和4年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	01	104350	青少年活動推進事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進		
	施策	02	青少年の社会教育				
目的	児童・生徒・青少年の健全育成を図るため、体験活動の場の提供や青少年関係団体への支援を行うとともに、成人式を開催する。						
対象	少年、青少年関係団体及び市内の幼児・児童・生徒を持つ保護者、20歳をむかえる人						
意図	青少年の育成や活動を支援し、自立した青少年を育む						
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はなまき！おもしろ探検隊開催 7回 96千円</li> <li>○青少年関係団体支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年関係団体（3団体）への補助 229千円</li> </ul> </li> <li>○20歳のつどい開催 1,434千円 <ul style="list-style-type: none"> <li>・式典の部（市主催）、記念行事の部（20歳のつどい記念行事実行委員会主催）</li> </ul> </li> <li>○共通経費 215千円</li> </ul>						
市民参画の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05	
1	20歳のつどいアンケート回収率	%	計画	30.00	30.00		
			実績	31.00	18.20		
2	青少年体験活動支援行事の開催回数	回	計画	3.00	3.00		
			実績	3.00	2.00		
3			計画				
			実績				
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05	
1	20歳のつどいに参加された方の満足度	%	目標	90.00	90.00		
			実績	95.70	97.40		
2	青少年体験学習参加者数	人	目標	110.00	110.00		
			実績	20.00	20.00		
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度			目標値より高い		概ね目標値どおり	○	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>はなまき！おもしろ探検隊は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、例年よりも参加人数を少なくして開催した。ほぼ例年どおり行うことができ、アンケート結果からは、子どもたちが楽しみながら活動し、地域の魅力を体験できたと考える。 成人式（R4から「20歳のつどい」に名称変更）に参加された方の満足度は、毎年式の内容を検証したうえで改善を重ねており、例年のアンケートでは90%を上回る高い割合を示している。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少子高齢化や核家族など社会が変化している中で、青少年が健やかに育つ環境づくりや、定住を見据えた市の将来を担う人材として育成支援に市がかかわることは重要なことである。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	青少年の郷土を愛する心を涵養することは「花巻で仕事をしたい」「地域に関わりたい」という将来の定住意識の涵養にもつながると思料されとともに、事業の実施を通じ、児童の家族や市民の青少年教育に対する認識が向上するものと思料される。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・事業は、節減努力を図り必要最小限で実施していることから、削減余地はない ・職員が関わるのは、補助金交付事務、連絡調整等が主な業務であり、人件費の削減余地はない
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	受益と負担の適正化余地 ・市内在住の全ての青少年を対象としており、受益機会は均等である
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	<input type="radio"/> 適正である	今年度の振り返り 「はなまき！おもしろ探検隊」は学区を超えた全市児童に「はなまきをもっと大好きになろう！」をテーマに、高校生ボランティアも運営に参画し、子どもたちの一体感の醸成や達成感、自己肯定感、花巻をもっと好きになる心の醸成に貢献した。（児童20名、高校生ボランティア19人参加） 20歳のつどいについては会場を総合体育館から文化会館に戻して開催した。新型コロナウイルス感染症対策については抗原検査キットを配布行ったほか、文化会館には対象者のみの入場とし、ご家族にはyou tube配信で式典の様子を見られるように開催方式を改めた。
	次年度に向けて	

令和4年度  
事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	02	01	01	124010	非核平和推進事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進			
	施策	02	青少年の社会教育					
目的	非核平和に対する意識の向上を図るため、平和の尊さを感じる機会として非核平和推進事業を行う。							
対象	市内小学校の児童及び中学校の生徒							
意図	平和の尊さを感じ、非核平和に対する意識を高める。							
事業概要	<p>○非核平和学習会の開催 82千円 新型コロナウイルス感染症の影響により小学生の広島派遣を中止した。代替事業として、広島平和記念資料館の講師による非核平和に関する講座と、花巻市博物館学芸調査員による花巻空襲に関する講座を市内小学5・6年生27名に対して行った。</p> <p>○非核平和学習会感想文集の発行 41千円 非核平和学習会の代替事業の感想文集を発行 1,480部発行</p> <p>○平和教室等の開催 4千円 小学校において平和教室（非核平和講話、平和DVD上映会）を開催したほか、非核平和展を開催 平和教室1回開催（合計17人参加） 非核平和展（平和ポスター展）を大迫図書館、石鳥谷図書館及び東和図書館において5日間開催（期間中の各図書館入館者数合計1,108人）</p>							
市民参画の有無								
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	R03	R04	R05	
1	非核平和学習会の参加児童数			人	計画	9.00	9.00	
					実績	0.00	0.00	
2	平和教室の開催回数			回	計画	5.00	5.00	
					実績	1.00	1.00	
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	R03	R04	R05	
1	非核平和学習会に参加して「勉強になった」と感じた児童の割合			%	目標	100.00	100.00	
					実績			
2	平和教室に参加して「勉強になった」と感じた児童及び生徒の割合			%	目標	100.00	100.00	
					実績	95.20	100.00	
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）	
非核平和学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響により小学生の広島派遣を中止したため開催できなかった。代替事業として行った非核平和に関する講座に参加した児童を対象に実施したアンケートの結果では、100%の児童が「勉強になった」と回答した。平和教室に参加した児童を対象に実施したアンケートの結果では、100%の児童が「勉強になった」と回答した。	
目的妥当性	公共関与の妥当性 市が平成18年3月に宣言した「非核平和都市」を推進するものであり、民間等で類似する事例もないことから、市での実施が妥当である。
	○ 妥当である
	見直し余地がある
	○ 妥当でない
有効性	成果の向上余地 平和教室に参加した全ての児童が「勉強になった」と感じているので、平和教室の開催周知に努め、より多くの学校で開催することにより成果の向上が見込める。
	○ 向上余地がある
	向上余地がない
効率性	事業費・人件費の削減余地 必要最小限の事業費であり、削減は難しい。
	事業費の削減余地がある
	人件費の削減余地がある
	○ どちらも削減余地がない
公平性	受益と負担の適正化余地 非核平和学習会は学校を通じて、平和教室は広報及び市HP等により公平に周知し、参加者、参加校を募集している。
	受益機会の見直し余地がある
	費用負担の見直し余地がある
	○ 適正である
今年度の振り返り	非核平和学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度から開催を中止していたこともあり、令和4年度は代替事業として、広島平和記念資料館の講師による非核平和に関する講座と、花巻市博物館学芸調査員による花巻空襲に関する講座を、市内小学5・6年生27名に対して行った。平和教室では、平和に関するDVDの上映の他、被爆された方から講話をいただいた。  どちらの事業においても戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさをより実感することができ、非核平和に関する理解及び意識が高まり、非核平和の尊さを後世に伝えていく子どもたちの育成につながった。
総合評価	次年度に向けて 非核平和学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度から令和4年度まで小学生の広島派遣を中止したが、感染者数の推移等をみながら事業の再開に向けて準備を進める。平和教室は、開催回数を増やすため、オンラインによる開催などを検討する。

令和4年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	03	02	04	134660	少年センター運営事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進			
	施策	02	青少年の社会教育					
目的	少年の非行防止及び健全育成のため、補導、啓発活動及び少年相談を行う。							
対象	青少年（小学生から20歳未満）							
意図	青少年を取り巻く環境の浄化を図り、健全な青少年を育む。							
事業概要	<input type="checkbox"/> 少年補導委員による街頭補導活動 3,546千円 <input type="checkbox"/> 青少年問題協議会の開催 0千円							
市民参画の有無	無し							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	R03	R04	R05	
1	街頭補導活動数			回	計画	408.00	432.00	
					実績	239.00	292.00	
2					計画			
					実績			
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	R03	R04	R05	
1	非行少年補導数			人	目標	0.00	0.00	
					実績	0.00	0.00	
2					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
成果指標は街頭補導活動における非行少年補導数とする。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	少年の非行防止及び健全な育成に関し、市が主体となり関係機関と協調を図り効果的な活動を推進する。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	警察、防犯協会、スクールガード等地域ボランティア等が連携することで更に成果向上が見込まれる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	巡回計画や集計報告等最低限の事務を職員が行っている。最小経費のため、削減できない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	全市民を対象としているため公平である。
	受益と負担の適正化余地	
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	<input type="radio"/> 適正である	少年の非行防止及び健全育成のため、少年補導委員による街頭補導活動を行ったことで、非行少年を生まない社会づくりの推進が図られた。  今後も少年の非行防止及び健全育成のため、引き続き事業を継続する。
	今年度の振り返り	
	次年度に向けて	